

連携・協働による「被災者」の 多面的な支援

熊本大学政策創造研究教育センター
安部美和



学生の機動力

- 14日の地震・・・黒髪地区グラウンドへ
- 16日未明・・・体育館内へ誘導、高齢者対応
- 16日朝・・・全体会議、役割分担、シフト割り
- 18日正午・・・解散

- 関係団体(サークル、学部学科):7
- 被災学生個人のボランティア参加もあり

黒髪体育館避難所運営

大学が避難所運営をする利点

期間:4月16日～4月30日(15日間)
最大避難者数:約1,000名



大学の特徴を活かした支援

- 救護所の設置・・・看護科・養護科
- ラジオ体操・・・スポーツ福祉学科
- 子どものレクリエーション・・・教育学部
- 音楽・・・教育学部
- 外国語対応・・・外国語科・留学生・グローバル教育カレッジ



自主運営

- 4月18日正午・・・学生団体ボランティア解散
- 「お手上げ宣言」

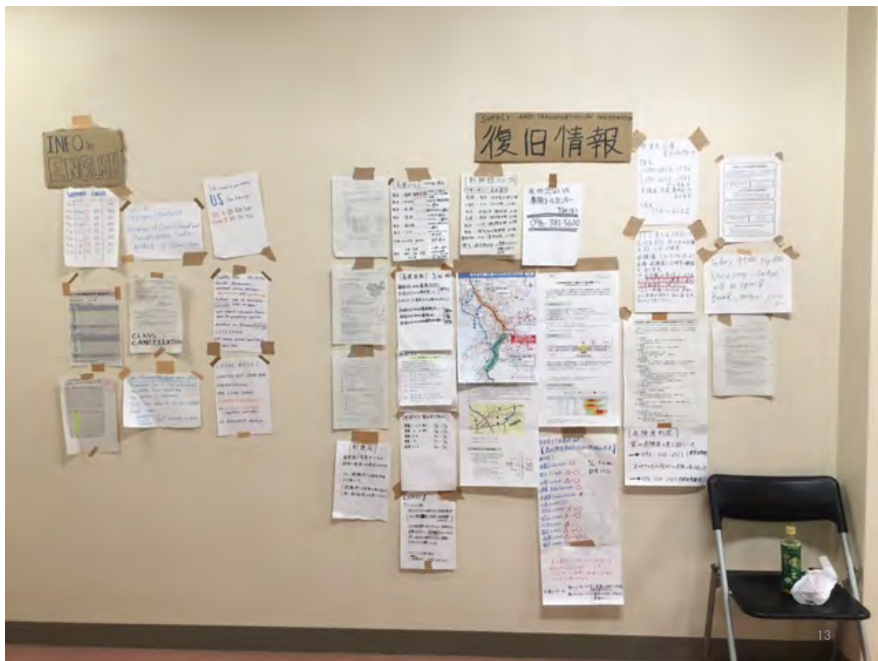




被災者支援、行政支援

専門性、継続性を意識した支援

14



専門を活かしつつ、長期の視点

- エコノミークラス症候群対策をラジオで啓発

いつでも、誰でも、どこでも

- 避難所における運動指導&カフェ運営

避難者同士をつなぐ

- 江津湖でジョギング&ウォーキングイベント

避難者と外をつなぐ

15



「被災者」「支援者」だけの関係にならない視点：行政支援

- 避難所の衛生状態改善のための方策（ガイドライン策定医師会へのコンサルテーション）
- 避難所担当者連絡会議の設立提案、開始
- 集約に向けた避難所運営改善のための方策検討
- 車中泊者の把握
- 避難所の区割りに関する配慮のコーディネーション
- 避難所引越し

18

復興のための行政支援

【御船町の事例】

- 御船町
 - 御船町対策本部（総務課）
 - 地域包括（福祉課）
 - 保健センター
 - 御船町保健所
- JRAT（リハビリに関する支援チーム）
- YMCA（スポーツセンター指定管理者）
- レスキューストックヤード（NPO）

17

ボランティア活動の多様性

19

様々なニーズと学生の参加

- 避難所の移動
- 栄養サプリメントの分包
- 足湯
- ボランティアセンター運営
- 農業支援
- 自宅の片付け
- ニーズ調査
- 車中泊の現状把握
- 記録データ保存
- 観光地情報の発信
- ボランティア活動データ入力
- 教育支援

20

多面的な支援に向けて

- 専門性を活かした取り組み
- 「支援者」「被災者」だけではない関係性
- 短期支援と長期支援
- 被災地周辺地域へのまなざし
- 支援者を支援する仕組みと人材

21